

Tsushima Isl.

対馬市の鳥獣被害の取り組み

第7回 全国鳥獣被害対策サミット



2020/2/20

対馬市副市長 桐谷雅宣



対馬の位置



対馬

対馬から撮影した 釜山市 大輪の花火



対馬市について

- 面積: 708km² ≒ シンガポール
→ 面積の9割が山地 = 「山の島」
→ 対馬島、100以上の小島、6の有人島から成る
- 人口: 30,562人 (R元.6月末現在)
- 集落数: 125 (半数は200名未満の小集落)
- 主産業: 漁業、土木建築業、サービス業
- 韓国からの観光客数: 41万人 (H30年)
- 1島6町から1島1市 (H16年3月合併)
- 予算規模: 308億5,900万円 (H31年度一般会計)



旅客混乗便(福岡～対馬～釜山)



ツシマヤマネコ



アナゴ



浅茅湾



赤米



宗家文書



伝統養蜂

対馬 金田城



対馬の特産品



「イノシシ・シカ被害防止対策」



対馬のイノシシ

歴史

- 1700年～1709年 : 陶山訥庵「猪鹿追詰覚書」により**絶滅**(約8万頭)
- 1994年(平成6年) : 成獣1頭が目撃される。
- 1998年(平成10年) : 被害が全島に及ぶ。

**300年前
絶滅**



推定生息頭数

算出方法が確立されていないため
把握できていない。

対馬のシカ

歴史

- 1966年(昭和41年) : 県の天然記念物指定→一切の捕獲が禁止。
- 1970年(昭和45年) : 農林業被害が発生し始める。
- 1981年(昭和56年) : 有害駆除開始。
- 2006年(平成18年) : 天然記念物指定解除。



推定生息頭数

年度	平成5	平成9	平成13	平成17	平成18	平成23	平成25	平成27
頭数	2,730	28,783	56,368	49,309	27,710	33,416	46,479	39,200

令和元年から2年にかけて生息数調査が行われる計画です(長崎県)
※自然生態系への影響が少ないとされる頭数: 3,500頭

被害の状況

- シカ、イノシシの増加により、農作物被害を始め、自然生態系まで影響を与えている。
- 近年では、市街地周辺でも出没しており、接触事故なども発生している。

①農作物被害



食い荒らし・踏み倒し被害

②林業被害



スギ・ヒノキの樹皮剥ぎ

③生態系被害

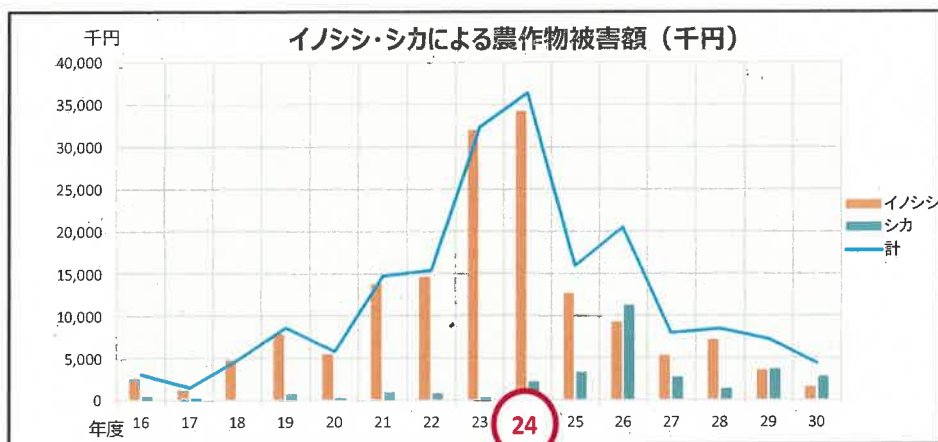


下層植生の減少・土砂流出

農作物被害

平成24年をピークに被害額は減少しているが、今日も被害は一向に減っていない。【単位：千円】

年度(H)	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
イノシシ	2,577	1,223	4,706	7,801	5,399	13,737	14,582	31,978	34,194	12,621	9,266	5,269	7,130	3,530	1,545
シカ	531	374	59	758	331	952	805	326	2,180	3,280	11,203	2,702	1,322	3,684	2,809
計	3,108	1,597	4,765	8,559	5,730	14,689	15,387	32,304	36,374	15,901	20,469	7,971	8,452	7,214	4,354



平成30年度の被害状況

種類	面積(a)	金額・千円
野菜	12	385
稲	131	1,368
いも類	85	1,516
飼料作物	75	430
果樹	55	488
雑穀	15	167
計	373	4,354

※対馬の農地は陸地の1.3%

- ※ イノシシ・シカともに、被害の多くは野菜、稲、いも類となっています。
- ※ 飼料作物はおもにシカによる被害です。



防護柵設置状況(ワイヤーメッシュ)

- 農地周辺での防護柵設置延長は、平成30年度迄で **1,082km** を設置している。

防護柵設置状況(ワイヤーメッシュ) 国費事業

【単位: m】

年度	22	23	24	25	26	27	28	29	30
厳原町	68,304	74,426	12,400	33,680	3,034	2,240	4,848	6,672	2,226
美津島町	27,274	22,852	14,286	4,170	2,640	2,442	952	3,008	868
豊玉町	27,474	21,075	23,646	18,238	3,194	1,480	196	396	644
峰町	16,570	27,990	17,810	16,072	1,282	2,240	1,590	3,574	558
上県町	17,914	40,628	24,668	17,230	2,316	1,290	1,240	2,486	434
上対馬町	11,290	41,520	1,050	10,882	0	0	0	166	0
計	168,826	228,491	93,860	100,272	12,466	9,692	8,826	16,302	4,730



地域おこし協力隊の奮闘

平成25年度から始動

有害鳥獣ビジネスコーディネーター
(獣医師)を採用

3年間にわたり地域に密着した鳥獣
被害対策に携わる。

- ・GISを用いて被害を見える化
- ・地域主導の鳥獣対策を強化
- ・食肉解体ガイドラインの作成
など





国のマニュアル化に向けた優良事例

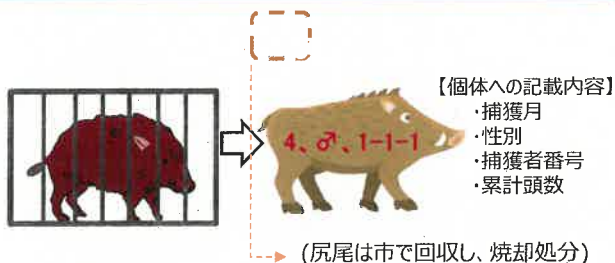
対馬市における捕獲個体の先進的確認方法

【対馬市ではGPS付きカメラを有害捕獲従事者へ貸与し捕獲確認を行っている】

- ・カメラは有害捕獲従事者へ常時貸与
- ・写真データは毎月提出し、データ取得後従事者へ返却
- ・罠設置、捕獲個体、捕獲日時、捕獲場所(緯度・経度)の情報を市で蓄積し管理



◆ 捕獲個体、捕獲日時を市で蓄積 (止めさし前後の写真を撮影)



◆ 罠設置・捕獲場所(緯度・経度)の位置情報を市で蓄積



←わなの設置場所及びイノシシ・シカの捕獲場所



わなの設置状況や捕獲の状況を地図に落とし込むことで被害対策の現状を可視化

<効果>

①耳・尻尾の現物確認に併せ、写真のファイルデータと撮影されている捕獲情報(黒板等に記載し、捕獲個体と一緒に撮影)が突合できるため確実に確認できる。

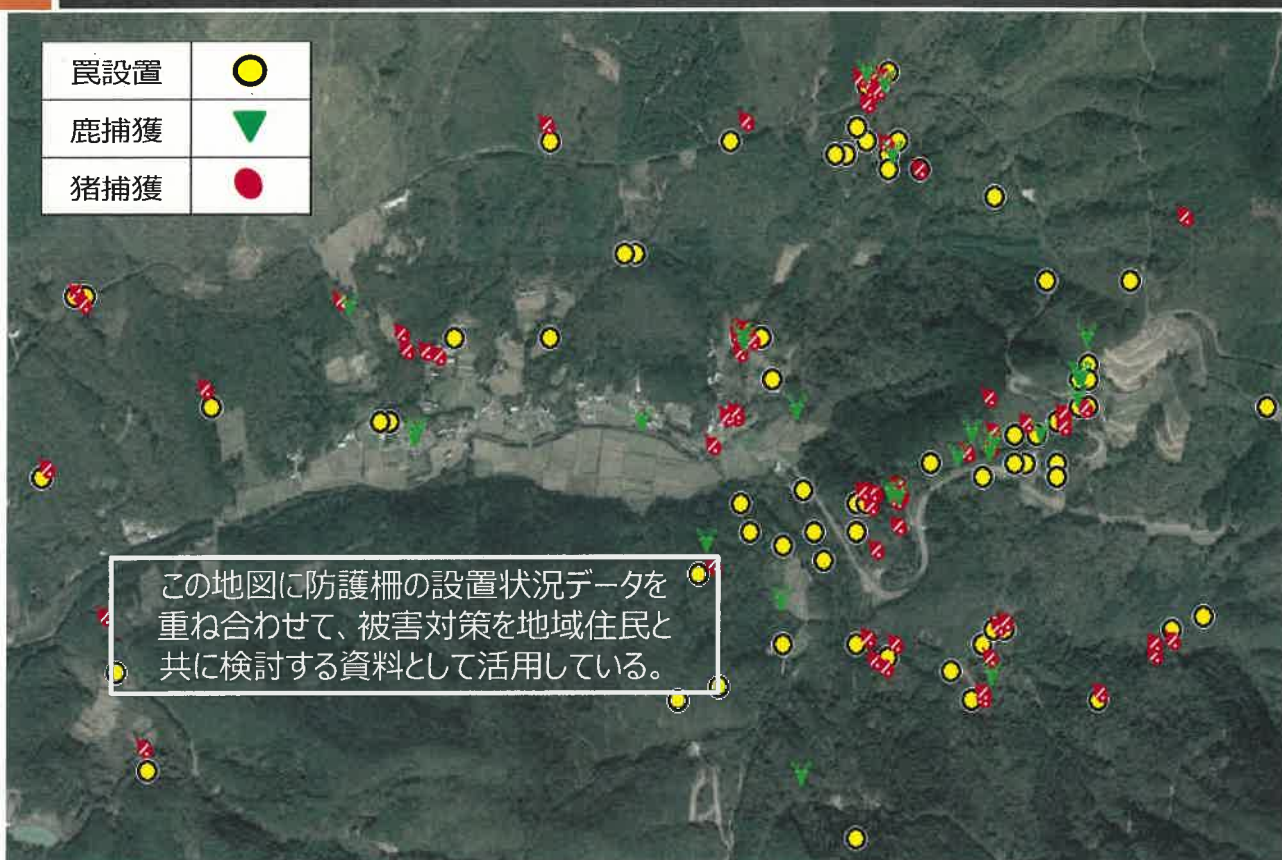
②位置情報があるため他市町で捕獲された個体の除外が可能となる。

③捕獲データに防護柵設置状況データを重ね合わせることで、被害対策を地域住民と共に検討できる。

④食肉利用する場合のトレーサビリティ構築の基礎となる。



罠の設置箇所及び猪・鹿の捕獲場所





捕獲状況の分布図 (H30)

GPS機能付きカメラを使用

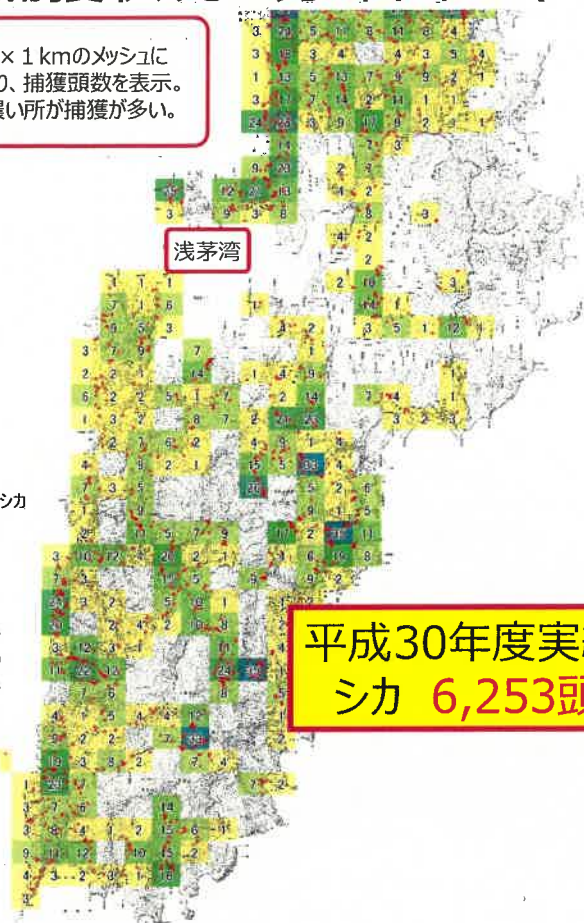
- 1 km×1 kmのメッシュに区切り、捕獲頭数を表示。
- 色の濃い所が捕獲が多い。

H30年度シカ

● シカ

ALL

- 1 - 4
- 5 - 9
- 10 - 15
- 16 - 20
- 21 - 25
- 26 - 31
- 32 - 38
- 39 - 53
- 54 - 70
- 71 - 93



シカ

鰐浦港



平成30年度実績
シカ 6,253頭を捕獲

- 山深い山間部での捕獲が進まない



今までの取り組み(地域と共に考える)

- 蓄積されたデータを資料として、各地区で被害対策の相談会を開催。
- 自分達の地域は自分達で守る、地区捕獲隊の推進の実施。

地区相談会



- ①蓄積されたデータを資料として地区の現状を説明
- ②地区住民と防護対策のあり方を一緒に検討
- ③地区捕獲隊の説明

自分達の地域は、
自分達で守る!!

地区捕獲隊



現在の地区捕獲隊は10地区(H31.3.31現在)

<地区捕獲隊とは>

免許を持った者が指導・監督を行い、地区住民が補助員として、罠の設置、見回り、餌付け、止め刺し、埋設までを役割分担し実施する集まり。



今までの取り組み(獣害から**獣財へ**)

大阪府立大学 と連携協定

平成26年3月に締結
シカ・イノシシ肉の食料利用
促進を目的とした学術研究

衛生管理 ガイドライン作成



平成27年3月に
大阪府立大学を始め、
有識者により作成

衛生的な解体を確立



市加工処理施設で
ガイドラインに従った
施設の衛生管理及び
解体手順を日々実践

大阪府立大学研究結果

検証項目

- 食品の衛生的な取り扱いの指標となる一般生菌数などの検証。
- 食中毒の原因となるサルモネラ属菌、などの検証。

材料及び 方法

- 対馬市猪鹿加工処理施設で生産された猪精肉45検体、市販の豚肉8検体、鶏肉8検体について検証。
- 検査はNIHSJ(標準試験)法に基づいて実施。

H31.3月 ながさきHACCPレベル6を取得しました

市販の豚肉、鶏肉と同等以上の
衛生状態であることが確認
された。

ガイドラインに沿った解体処理が
衛生的であり、安心安全に消費者
に提供出ることが実証された。



ふるさと納税の返礼品のご紹介

- ふるさと納税は、平成28年11月1日から開始。

謝礼品名：対馬の絶品島ジビエシャルキュトリー 詰め合わせ



5種詰め合わせ

H30年まで販売単価4,000円



対馬の絶品島ジビエシャルキュトリー
4種詰め合わせ (H31年単価3,000円)



今までの取り組み(普及啓発活動)

資源活用を通じて、有害鳥獣対策について知り、対馬を元気にする人々を増やす。

- 市の施設での加工品製造と販売（イベントでの試食なども実施）
- 捕獲されたイノシシやシカを肉や革などの資源活用による普及啓発活動。
- 島の未来を担う子供達に向けた教育活動。
- 島内の全小中学校の学校給食で定期的に活用する事で、農作物同様に地産地消として、また、子供達の食育としても、積極的に活用を推進する。

市民向けソーセージづくり教室



腸詰めの様子

中学校での授業



捕獲従事者による銃と箱わなの説明



レザークラフト講座



学校給食



シカの竜田揚げ



対馬市の
有害鳥獣対策

ご静聴有り難うございました。

